

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
6 2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Tobacco and alcohol consumption and risk of lymphoma: results of a population-based case-control study in Germany. タバコとアルコール消費とリンパ腫の危険性—ドイツにおけるケース・コントロール研究	
<b>執筆者</b>	
Nieters A, DeegE, BeckerN.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Int J Cancer. 2006 Jan 15;118(2):422-30.	
<b>キーワード</b>	
リンパ腫、喫煙、飲酒、ケースコントロール研究、オッズ比	
<b>要 旨</b>	
<p>タバコはリンパ腫に罹患する率を上げ、酒はその率を下げるといわれている。</p> <p>タバコと酒がリンパ腫の発生に関係しているかをドイツのケースコントロール研究(ある疾患に罹った者: ケースと、そうでない者: コントロールが過去においてどのような危険因子にさらされたことがあるのかを調べる後ろ向き研究) で調べた。</p> <p>710人のケース・コントロールのペアを比較した。ケースはリンパ腫にて通院している患者より、コントロールは地域の登録住民より、ケースに年齢、性別などを合わせて選んだ。</p> <p>タバコに関しては長期間喫煙している者ほど(30年以上)、一日20本以上喫煙している者ほど、オッズ比(ある事象の起こりやすさを2つの群で比較して示す統計学的な尺度)が統計的には有意ではないが、上昇していた。特に男性では多発性骨髄腫が2.4倍、ホジキン病が3.6倍になっていた。アルコール消費をする男性はほとんど飲まない男性に比べ、53%リンパ腫にかかりにくかった。女性にも同様の傾向が見られた。少量のアルコール摂取についても同様の傾向が見られ、酒の種類の関係はないようだった。</p> <p>結論) リンパ腫の罹患と喫煙は正の関係があり、飲酒とは負の関係がある。</p>	